

# 街のともし火

## ■設定地域

富山県南砺市に位置する伝統の町、井波を設定地域とした。井波では、古くから彫刻が盛んに行われてきた。「木彫りの里」とも言われ、その歴史は古く、250年前に「瑞泉寺」の建立に携わった宮大工がその技術を伝えたことから発展したといわれている。瑞泉寺の表参道にあたる八日町通りでは、風情のある街並みが軒を連ね、彫刻の街ならではの装飾や石畳の道が街全体を彩っている。

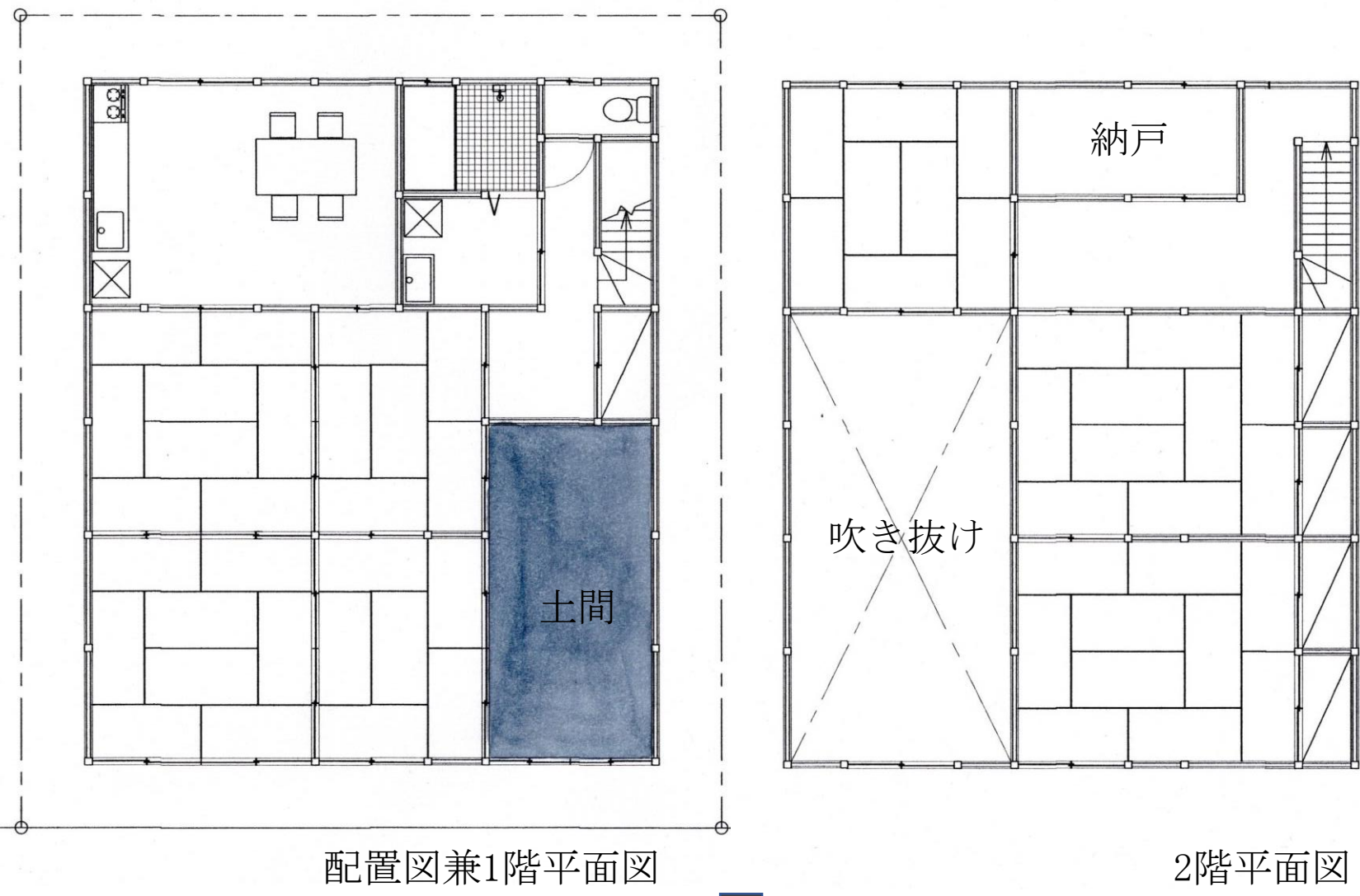


## ■現状と課題

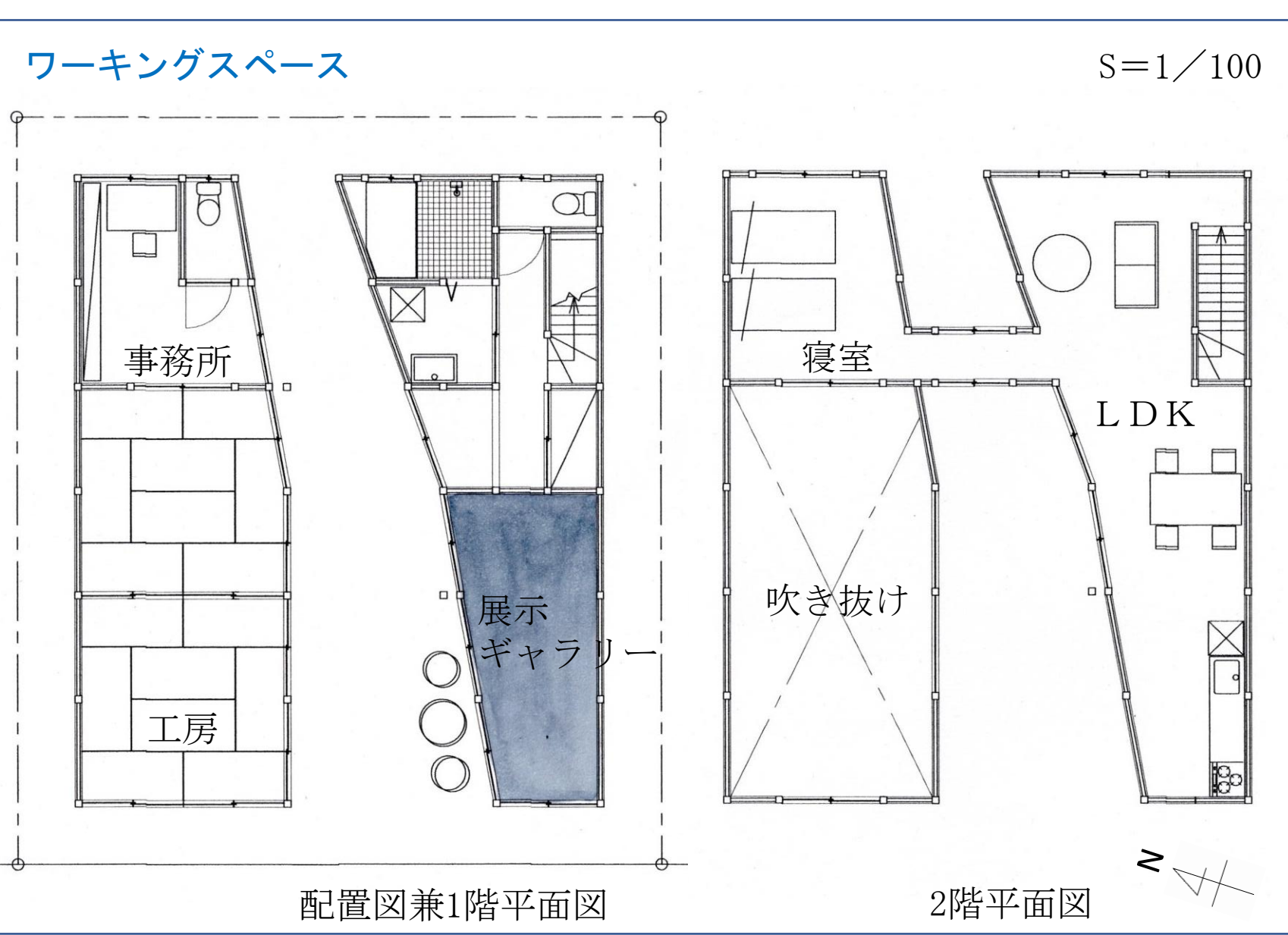
毎年、多くの観光客が訪れる観光地であるが、他の地方都市同様、人口減少、少子高齢化、若年層を中心とした流出による人口構成の変化などが課題となっている。また、伝統産業を担う職人の高齢化に伴い、技術や知識の継承が危ぶまれている点も大きな課題の一つである。

- “みち”と“すまい”をつなぐ動線
- 居住スペース
- ワーキングスペース
- 広場

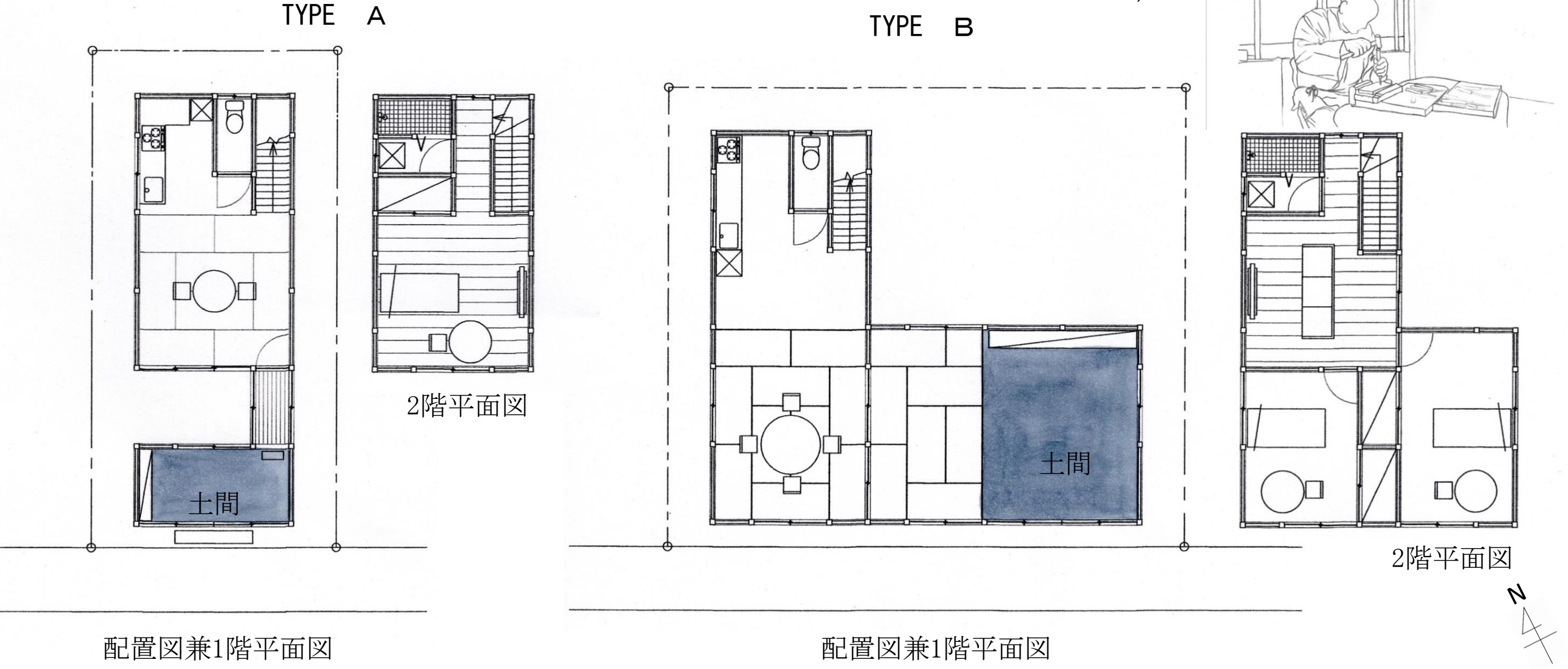
## ■改修前



## ■改修後



## ■居住スペース



## ■滞在者—住民

空き家を再生し、滞在者の居住空間とした。長屋の雰囲気や日本家屋の雰囲気をそのままに、現在のライフスタイルに合わせて使用できるようになっている。1階の土間部分は技術を磨くための作業スペースとなっており、前面道路からもその様子を伺うことができる。住民が行きかう道路でもあるため、声を掛け合い、交流を図りやすい空間構成となっている。滞在人数に応じてTYPEを選択できる。

## ■設計趣旨

八日町通りから、その奥へと観光客を呼び込むための一本の“みち”を通す。この“みち”は、ここに住まう人々や訪れる人々を「新たに繋げる」「みち」となり、この“みち”をともし火と捉えた。このともし火が2本、3本と増えることによって大きな光となり、街全体を照らす存在となる。この計画は、その最初の一步である。

八日町通りには、井波彫刻の工房や土産店などが軒を連ね、工房の見学や様々な体験も可能である。しかし、観光地を訪れた際、色々な体験をすることで、それらが「思い出」として残ることはあっても、その先へと繋がることはなかなかない。

そこで、訪れる人々の「興味・関心」をさらに醸成するため、街に一本の“みち”を通す。その“みち”に惹かれるようにして、この地の技術に興味を抱いた「誰か」が、短期、あるいは中期的に滞在し、この街で職人から「技」を学ぶ。そこで得ることができるのは「思い出」ではなく「経験」である。また、この「滞在者」は街に新しい変化をもたらす存在となる。近隣住民の関係性は、時代とともに変化し、「互いを干渉しない」関係が当たり前の風潮となってきた。しかし、住む世界も文化も異なる「滞在者」がそこに加わるとどうだろう。生活に必要な情報を尋ねられたり、文化や風習を教えてほしいと問われれば、断る者は少ない。そうやって交流の輪はどんどんと広がり、気がつけば住民同士の繋がりも、これまでとは違った形を形成していく。

そして、滞在者が「経験」を持ち帰ることで、別の地で、新しい「技術」「夢」が広がっていくかもしれない。滞在者ではなく、この街の住人となるかもしれない。地域住民、職人、滞在者、観光客など様々な人々がこの“みち”を介して繋がっていく。

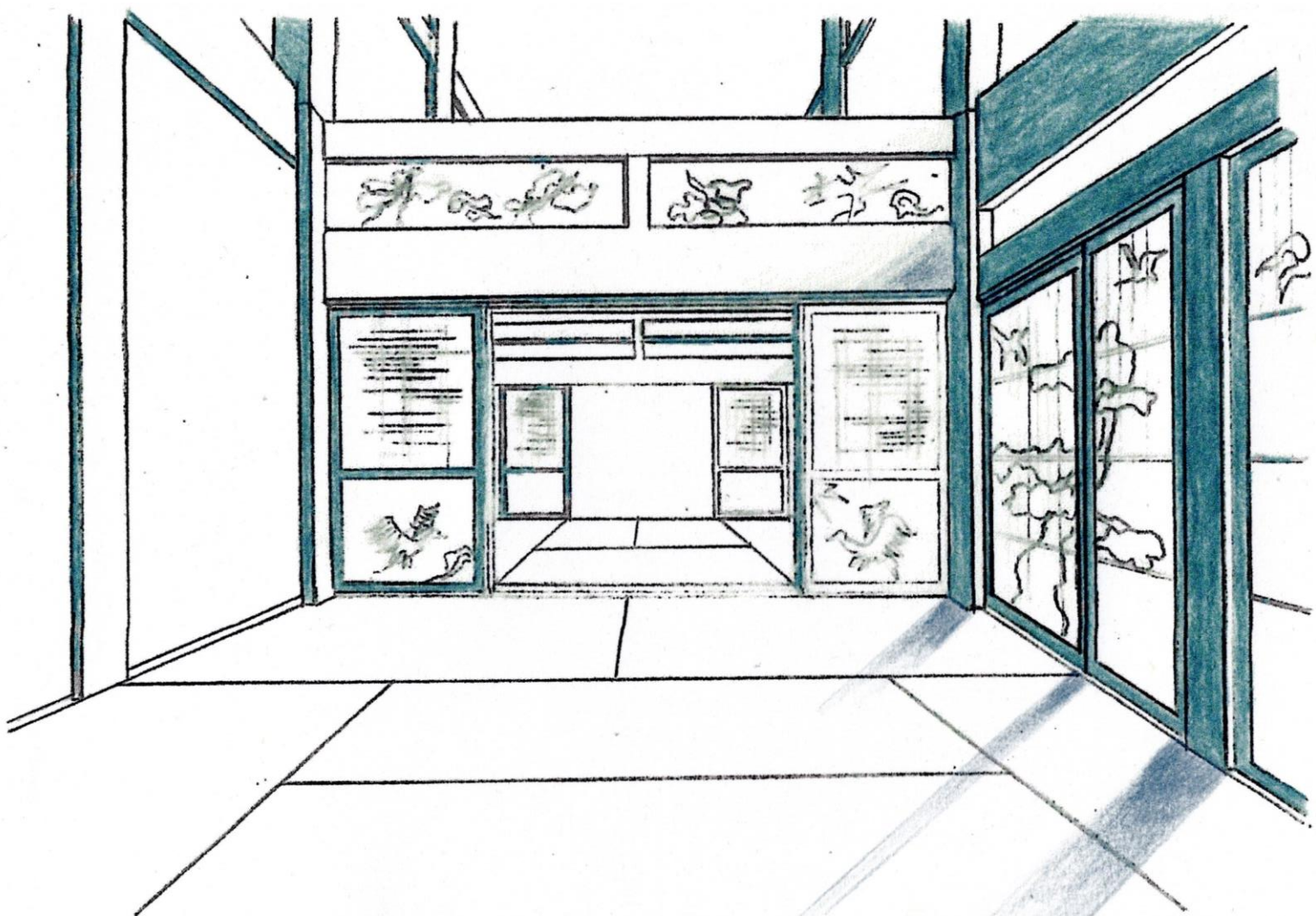


八日町通りに沿って、昔から代々彫刻師をしている職人の大きな住まいがある。現在は高齢者夫婦だけで住んでおり、その大きさを持って余していた。そこで、この大きな住まいの中央部分を減築し、1棟を2棟に分断することで、住宅を抜けるように一本の道を通す。

八日町通りを背に、右側の棟の1階土間部分は井波彫刻の展示ギャラリーとし、作品の購入もできる。左側の棟の1階和室部分は工房とし、この家の住民である彫刻師が技を振るう様子や、その教えを受ける「弟子」となった滞在者の熱心に取り組む姿を伺うことができる。

道の入口部分の幅員は広く、奥に行くにしたがって狭くなっていく。通りの奥に何が続くのか気になり、訪れる人々を惹きつける。気になるがままに進んでいくと、緻密な手作業が施された、美しく繊細な井波彫刻作品と出会えたり、あるいは作業に真剣に取り組む「師匠」と「弟子」の様子を垣間見ることができる。

夜になると八日町通りと“みち”に面した窓ガラスは、一面障子戸に覆われる。この障子戸にも美しい井波彫刻が施されており、内側からライトアップすることで和紙を介した明かりの中に彫刻の影が浮かび上がり、道はともし火のように幻想的な雰囲気包まれる。



## ■職人—滞在者—観光客

欄間や建具の随所に井波彫刻が施され、吹き抜けた2階部分からは立派な梁の姿を見ることができる。あらかし梁のある広い座敷を工房とする。日中は障子戸を開け放しているため、中での作業風景を通りから伺うことができる。